

## 第1回 西原町地域公共交通会議 会議録

(開催要領)

- 1 日時 平成20年6月25日(水) 午後2時から午後4時まで
- 2 場所 西原町役場第5庁舎会議室
- 3 出席委員 村上強志、與那覇徹、米須勇、金城淳、新垣長正、中山靖章、運天隆、  
(敬称略) 真栄城朝雄、新垣良秀、野村安、喜屋武貞夫、真栄田博康、喜屋武勝、  
仲里義光(代理 當間正秀)、喜屋武光廣、石川清勝、宮平良信、宮平正和
- 4 欠席委員 無
- 5 事務局 小橋川聰企画政策課長、又吉宗孝政策係長、富原秀朝主任主事

(会次第)

- 1 委嘱状交付
- 2 町長あいさつ
- 3 要綱説明
- 4 会長の選出
- 5 会長あいさつ
- 6 議事
  - (1) これまでの経過説明
  - (2) 乗合タクシー又は小型バスの実験的な運行について
- 7 次回会議の開催について

【配布資料】

- 資料1 西原町地域公共交通会議委員名簿
- 資料2 西原町地域公共交通会議設置要綱
- 資料3 これまでの経過説明
- 資料4 西原町乗合タクシー又は小型バスの実験的な運行の概要について

---

### 委嘱状交付式

会議に先立ち委嘱状交付式が行われ、新垣正祐町長より各委員に委嘱状が交付された。

### 新垣正祐町長あいさつ

町長は別日程があり、ここで退席。

### 要綱説明

事務局より「西原町地域公共交通会議設置要綱」(平成20年6月24日公布)内容説明。

(喜屋武貞夫委員)

第5条第5項で、「議決の方法は原則全会一致」とあるが、福祉有償運送運営協議会の場合では合意事項となるが、あの会議とは違うのか。

(與那覇委員)

福祉有償運送運営協議会とは違う別の会議である。

#### 会長の選出

(事務局)

会長の選出は要綱第5条第1項より互選ということになっている。委員に会長の互選を願う。互選がないようなら、事務局案を提示してよろしいか。

(一同)

異議なし

(事務局)

地域公共交通会議は、市町村が主宰することから副町長を会長としたいがよろしいか。

(一同)

異議なし

(事務局)

会長を副町長 宮平正和に願う。

#### 宮平正和会長あいさつ

会長代理を村上委員に願うがよろしいか。

(村上委員)

了承。

#### 議事(1)これまでの経過説明

(事務局)

配布資料3 これまでの経過説明を読み上げる。

(宮平会長)

これまでの経過説明で何かあるか。

(野村委員)

会議の委員に那覇バスと東陽バスが入っているが、沖縄バスが入っていないのは、何か理由があるのか。

(事務局)

地域の公共交通ということで、町内を走っている公共交通機関を入れている。

#### 議事(2)西原町乗合タクシー又は小型バスの実験的な運行の概要について

(事務局)

配布資料4 西原町乗合タクシー又は小型バスの実験的な運行の概要について読み上げる。

(宮平会長)

項目ごとに協議していきたい。

(宮平良信委員)

今のルートでは兼久地域を通らない。部落内を通すことは可能か。また、マリnparkも実施時期となる9月から11月はシーズンオフになり利用者がほとんどいないのでは。部落内を通せば少しは利用が増える可能性があると思うが。

(事務局)

今のルートは、昨年の調査報告書での案を踏襲するような形で設定している。運行ルートは、運行事業者が立てる運行計画で実際に決まってくる。会議の中でそのルートが適切なものか協議していただきたい。マリnpark 9月10月も利用者は多い。

(村上委員)

昨年、調査をさせていただいたので補足を。地域住民を対象としたアンケートで、池田地域は配布数548に対して回収数244で回収率44.5%。小波津地域は、配布数590に対して回収数369で回収率62.5%。兼久地域は1608配布して、回収は112で回収率7.0%という結果になっている。公共交通に対するニーズが回収率にも反映していると推測し、兼久地域は優先順位が落ちたという調査結果にしている。公共交通に対する思いがどれくらい強いかは、アンケートの回収率にかかってくると思う。報告書にもそう書いた。また、アンケートでは、首里駅までの通勤、通学のアクセスのニーズが高くなっている。

(宮平良信委員)

兼久地域のアンケートにおいても、役場や首里駅までのアクセスのニーズが高くなっている。マリnparkまで戻って乗るとなると、非常に不便になる。

(村上委員)

であれば、住民の方がほんとに乗りたいかどうか。需要があってはじめて運行となる。

(當間委員)

調査報告書からだと、池田・小波津地域のみなさんは、公共交通が走ってほしいとおっしゃっているのではやはりそこは重点に、次にマリnparkは、どうも町の発展のために書かれている気がする。

(宮平会長)

マリnparkは、これから発展する地域である。昨年の来場者は25万人でほとんどが自家用車で来園になっている。これからは知名度が上がって、観光客が増えれば、首里駅からバスが出ることによって、便利になるのではと考える。

(中山委員)

実証実験にかかる運行経費について、町から補助金や委託料はありませんと書かれているが、そうなのか。

(宮平会長)

総合事務局の委託も受けていくわけだが、実証実験がどのような形で推移するのか含めて、交通空白地域を解消するため、町としても対応を考えていきたい。

(中山委員)

町からの補助金及び委託料がないとなると手を挙げる運行事業者はいないのでは。これまでの実証実験をみると、先ほど村上委員がおっしゃったようにニーズはあるが、利用者がいなければどうしようもない。無いよりはあった方がいいと住民は言うが、実際の利用者は少ないというのが実証実験の現状。最近の沖縄市の事例も実態はそうである。

(喜屋武貞夫委員)

町は補助金を出さないと書いているが、国や県はどうなのか。

(事務局)

今の段階では、基本的にバックアップということで、バス停や周知広報などは町と総合事務局とで準備をしていこうと考えている。運行経費については、運行事業者の方でなんとかならないかと考えているが、先ほど会長からあったように、状況によっては変化すると思われる。

(當間委員)

でしたら資料も別の書き方をされたほうがいいのでは。地域の足を守るという観点から継続の支援を打ち出された方がいいのではないか。

(宮平会長)

委託料は、運賃収入で採算が取れるかどうか論点になってくる。実証実験が終了した段階で変化が現れてくると考える。

(喜屋武貞夫委員)

実証実験で運行するからには経費がかかるわけだから、きちんと出してもらわないと。今、燃料代が高くなって、運転を控えている状況もある。

(中山委員)

バス会社も燃料費の高騰で非常にきびしい状況である。燃料費や人件費の問題も考慮してほしい。たしかに空白地域ということは理解できるが、経費を含めて全体を考えていただきたい。

(喜屋武貞夫委員)

今、市町村や国の財政も苦しいと思うが、民間はもっと苦しい。実証実験でもきちんと経費を出してもらわないと手を挙げたくても挙げられない。タクシーも非常にきびしい状況である。例えば、一昨年、東京でタクシーの運賃値上げ問題があり、燃費率(営業収入に占める燃費率)が4%から6%になると大騒ぎして値上げしたが、実は沖縄はその時点で10%を超えている。今、平均で18%を越えている。空車も多い。手を挙げたくても挙げられない。実は、今日はやるつもりできた。事前に説明に来たときの資料では、低い時の人件費と燃料で試算されていたが、なんとかやっていけるのかと思ったが今日の資料を見て

いるところゆう状態では。実は琉大病院ができたときに、モデル的な乗り場を作ろうということで、琉大病院、私鉄沖縄、バス事業者と苦心して作ってきた。今回もそう形で望もうにも、非常にきびしい情勢である。ゆとりなどない。やってくれというのなら、何らかの援助があれば協力する気にもなる。

(運天委員)

燃費が18%ということは、1万円の収入に対して1,800円は燃料費ということになる。昨年10月にタクシーの運賃改定(12.4%アップ)があったが、全体では対前年度でマイナス5%売り上げが落ちている状況である。

(宮平会長)

実証実験の期間となる9月から11月にかけて十分検討していきたい。資料では委託料はありませんと書いているが、今の状況からすると、実証実験ができない状況になるので、空白地域をそのままにしないためにも、町からも何らかの形を出していきたい。町長にも十分伝える。助成ということも視野に入れながら協議していただきたい。

それでは1項目についてはこれでよろしいか。

(喜屋武貞夫委員)

意見がある。夕方は別として朝、マリパークから乗る人がいるのだろうか。時間帯によって、柔軟に対応したほうがいいのでは。朝の時間帯に、はたして30分でマリタウンから首里駅まで行けるのだろうか。

(喜屋武勝委員)

渋滞があるため、まずこのルートだと30分では着かないと思われる。

(宮平会長)

この実証実験によって、渋滞が解消されるということは考えられないか。

(喜屋武貞夫委員)

起こりえない。モノレールができて渋滞解消にはならなかった。マリパークからいつ人が乗るのか調査する必要がある。

(宮平会長)

ほかにも意見があればお願いしたい。

(喜屋武貞夫委員)

この話を聞いたときに、役場から事前に何も聞かされていなかったもので、説明に来たときに怒ったが、うちの方で10日間、小波津団地と池田地域からのお客さんを調査した。10日間で47回の利用。人数は男性29名、女性29名、計58名。小波津団地発が36回、池田ハイツ発が5回。朝は27回、少ない人数しか利用していないというのが実態である。ただ、実証実験を行うとこれよりは若干伸びるだろうと考えられるが。これまでの検討結果をみると、小中学生の通学に利用したいのか、通勤に利用したいのか、あるいは両方なのか主体がよくわからない。

(野村委員)

車輛やルートはアンケート結果に基づいて出てきたものではないか。

(真栄田委員)

まずは走らせてみて、課題を探ったほうがいいのでは。

(當間委員)

西原町が責任を持って定めたルートで、どのような利便性や収益性があるのかを検証するため実証実験を行い、経費のマイナス分については町が何とか考えてくれるということであれば、とりあえずこのルートで走ってはどうか。今の段階でこの調査はどうだという議論はどうかと思う。

(宮平会長)

ルートや利便性など実証実験から得られるものが多いと考える。

(喜屋武貞夫委員)

ルートがダメだと言っているわけではない。ただ、実際走らせるのであれば時間帯など有効利用した方がいいということだ。

(事務局)

ルートや時間帯については、昨年の調査報告書に基づいて作成したもので、運行事業者が作成する運行計画で変更は出てくるものとする。

(村上委員)

アンケート調査に基づいて選んだルートなので、そこは実際にやってみないと。あと、支援を前提に運行するということは、需要があるのかないのかという不安を持つ事業者、足がないと困るといった住民の意見もよくわかる。ただ、補てんを前提に実証実験を行った場合、人を乗せないといけないういんセンティブが働かないという懸念がある。また、住民も赤字は補てんされるので、切実に乗らないというデメリットの懸念もある。ただ、実証実験をして蓋を開けてみないとわからない。そこで、打ち切りの規定の意味があるのでは。住民にとっては3ヶ月のイベントでは意味がない。住民が常に利用する、事業者も利益が出るとまでいかないが経営がなんとか持つという持続可能性がないと、空白地域の解消にならないのでは。事業者の支援という気持ちもわかるが、長い目でみてどうなのか。

(宮平会長)

あくまでも支援を前提としたものではないという考え方で、支援は、今後運行事業者とどうゆう形になるのか協議したい。

(中山委員)

運行時間等については、これで了承してくれということなのか。

(宮平会長)

実際、走らせてみないとわからないので、まずはこの案で進めていきたい。

(真栄田委員)

町は、利用者へのアピールをどう考えているか。

(宮平会長)

町の広報紙などを活用し、PRを徹底していきたい。

(真栄田委員)

実際このルートを走らせてみたか。30分ではきびしいのではないか。

(喜屋武勝委員)

朝7時30分から8時30分までは、渋滞がひどく、城東小学校から首里駅に行くまで20～30分かかる。

(事務局)

那覇バスの時刻表では、混んでいる時間帯でも最長30分では首里駅まで行っている。

(宮平会長)

最長でも30分で着くようだ。運行ルート、運行時間についてはこれでよろしいか。

(一同)

特になし

(宮平会長)

運行本数についてはどうか

(當間委員)

運行本数1時間に2本程度だと、普通のバスの感覚とは違うので、徹底した周知が必要だと思う。通常だと15分待つと手を挙げてタクシーを利用する。何時に来るときちっと広報する必要がある。

(中山委員)

実証実験にしろ、定時運行を確保することは重要だ。今回、警察の方も参加されている。

(事務局)

交通環境については、昨年の報告書で乗合タクシーを中心に書かれており、通勤通学時にマイクロバスを利用したとしても今回のルートで支障はないのではと考える。

(當間委員)

乗合タクシーの許認可の条件は。また、運賃収受はどのような形態か。

(村上委員)

県内では初なので、他地域を参考にされてはどうか。

(真栄田委員)

実証実験のあとどうするのか。内容によって続けるのか。

(宮平会長)

交通不便地域を解消するために実証実験を行う。結果をみて続けていきたい。

(陸上交通課)

実証実験の結果をみて本格運行になるかと思うが、その際は、事業認可が必要となる。

(真栄田委員)

続けないと意味がないのでは。

(與那覇委員)

利用者がどれだけいるかを把握しないと、営業そのものが成り立つかどうか。3ヶ月後にこの経路を続けたい事業者がいるかどうかだ。

(真栄田委員)

平成18年度にバス会社に対して提起しているが、採算が合わないと判断している。今回でしっかりマーケティングができるのでは。

(中山委員)

コミュニティバスの実証実験で、地域のみなさんは無いよりはあった方がいいと言うが、地域のみなさんが乗らないと、ここで議論しても継続できない。実際はほとんど乗らない。今所有している車を手放すぐらいの気持ちがあるかどうかだ。行政のみなさんは空白地域だとおっしゃるが、採算面から赤字で走らせないところもある。

(宮平会長)

たしかに、実際乗るかどうかわからない。しかし、住民から要請がある以上、空白地域となっているわけだから、公共交通の利用促進も含めて策を講じていきたい。運行本数と運行期間についてはこのとおり進めてよいか。運行期間は3ヶ月できるように支援も含めて事業者と協議したい。次に5項目の運賃及び料金について意見をお願いしたい。事務局から何かあるか。

(事務局)

昨年の報告書では初乗り140円と200円の2案がある。

(野村委員)

料金は均一となるのか。

(中山委員)

途中で打ち切るということも含めて料金設定するのか。

(真栄田委員)

事業者も使命感があるので協力するという話である。これで儲けようとは思っていない。

(與那覇委員)

逆に一律100円ではどうなのか意見をお聞きしたい。

(宮平良信委員)

利用者からすると安いにこしたことはないが、問題はそれで事業者の採算が合うかどうか。継続するとなると赤字ではきびしいと考えるが。

(真栄田委員)

この地域の人にはバスが通るだけで利便性が上がる。100円という金額はどうか。

(中山委員)

町が200円のうち100円は助成してくれるという考えはあるのか。

(宮平会長)

そういった想定はしてもらいたくない。助成金をあてにするのではなく実証実験を経て、将来も継続していけるように料金設定していただきたい。



(野村委員)

マリナーパークから乗っても200円、池田地域から乗っても200円では、お客さんに不公平が生じるのでは。またこの場で料金を決めていいのか。

(中山委員)

市内線は、どこから乗ろうが200円均一である。

(陸上交通課)

地域公共交通会議で合意のあった運賃は、通常の認可運賃とは違って協議運賃ということで届出になっている。こちらが中身を審査してとやかに言うことはなく、地域のみなさんが合意をしているのであればその運賃を尊重しましょうということ。現実的な対応としては、ジャンボタクシーなので、均一運賃になるかと思うが、この会議で決定してもらってかまわない。

(當間委員)

3ヶ月間なので、設備投資から考えると料金は均一が望ましいのでは。

(石川委員)

ここで書かれている均一料金は一般料金だと思うが、後期高齢者など別立てにできないか。小児運賃も1歳からではきびしいのでは。

(宮平会長)

後期高齢者については、町の方で切符を助成するなど考えられる。一般運賃については、統一か中間点で分けるのか事業者のみなさんはどちらがいいのか。

(米須委員)

料金体系にしてもほかの項目にしても乗合タクシーにするのか小型バスにするのかいずれかで決めていかないと料金についても決められないような気がする。乗れる人数で、小児の運賃体系も変わってくるのでは。入り口をまず決めるべきでは。

(當間委員)

報告書では乗合タクシーが前提となっているが、8名だとすぐに定員とならないか。

(中山委員)

7月9日までに事業者を募集するとあるが、そこで決まることではないのか。バスやタクシー事業者に運行の要請は行っているのか。

(宮平会長)

報告書では乗合タクシーとなっているが、小型バスでの実証実験も考えられるのでは。

(事務局)

料金は統一でまとまりつつあると見ている。乗合タクシーであろうが、マイクロバスであろうが、同じ料金設定で提案が出てくるものと思われる。

(宮平会長)

料金については、乗合だろうが、マイクロバスだろうが同じ料金設定にして、小児については何才から取ると決めればいいのかではないか。

(事務局)

乗合タクシーで大人200円、小学生以下100円。1才から6才まで2名は無料という事例がある。

(石川委員)

西原南小学校まで子どもたちを乗せるとなると10名はいるので乗合タクシーで収容できるのか心配である。

(野村委員)

意見が出ることはいいことだが、まずは項目に順序だてて議論したほうがいいのでは。昨年の調査報告書に基づいて実施し、その後の対応を議論した方がいいのでは。

(宮平会長)

この会議でいろいろ意見を出して検討していただきたいのが本音。最初から事務局案でいくのではなく、会議の中で決めていくものだと考える。料金は均一とするということではよろしいか。6才以上12歳未満は半額で6才未満については、1人目までは無料とする考え方でお願いしたい。金額は、運行計画を出す段階で140円から200円の範囲でお願いしたい。車輦は、乗合タクシーか乗合バスになるかは事業者で検討していただきたい。運行開始時期については、9月から11月の3ヶ月でお願いしたい。運行主体については、助成することも考慮して実証実験をやっていきたい。募集期間は7月9日までとする。応募資料を事務局よりお送りする。8項目は運行に係る報告事項を定めている。9項目、停留所設置については調整し設置するとなっているが。

(中山委員)

既存バス停については、道路交通法第44条の関係があるので気をつけていただきたい。

(宮平会長)

法令を遵守し行っていく。協議事項はこれで終わりとなるが、他に何かあるか。

(喜屋武貞委員)

タクシー事業者が運行を行う場合、こういった車を想定しているか。

(事務局)

10名乗りのジャンボタクシーを想定している。乗客は9名。

(宮平良信委員)

車輦はジャンボタクシーで決定ということか。最初にこの計画を作ったときに、空白地域の解消という目的以外にも子どもたちの安心安全な通学路の確保という目的もあった。小波津団地で10名の子どもが乗るとジャンボタクシーでは小さいのではという気がする。

(宮平会長)

事業者の採算性とかいろいろな提案が出ると思う。まずは実証実験を行って検証していきたい。

(事務局)

次回会議は、7月30日(水)午後2時から4時で予定する。